

<p>コース名 福祉政策コース</p>	<p>2024年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p>授業の内容</p> <p>(ゼミの概要)</p> <p>障害福祉サービスの報酬単価が改定されました。</p> <p>その中心の1つは、子ども子育て支援の流れを受けての児童発達支援センターの役割の変化です。もう一つは放課後等デイサービスの位置づけ方の変更です。また、大人の報酬単価はいくら賃金を得ているかどうかで、重い障害のある人を排除するかのようなくみです。そんなことを軽く概括しながら、また障害者権利条約の総括所見の学習もしつつ、日本の障害福祉政策そのものの方向感を理解していきます。</p> <p>(学びの概要)</p> <p>この報酬単価構造の変化の根元にある「狙い」は何でしょうか。それは、「権利としての社会保障」から「共助・連帯としての社会保障」への理念の転換だと考えています。このことがいまの政府の支柱です。いまの政府の支柱のもうひとつが「我が事丸ごと地域共生社会の実現」。このことあわせて、どこがどうおかしな考えなのかを確かめてみましょう。</p> <p>またここ数年は、実践者や支援者自身が悩む日々が続いているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくためには、どういう見方や考え方や理論を持つのが問われています。情勢などを把握しつつも、意見交換のなかで大切にすることや“軸”を共有したいと思います。</p> <p>(各回の内容)</p> <p>1回目に参加者の学習要求を出し合って、その方向性に沿いながらゼミの計画を立てます。資料の要約・報告などを分担しながら、その狙いについて議論して深めていきます。関連する領域・施策を学習する回を組み込むことも考えています。</p> <p>例えば以下のようなテーマで議論することもあるかもしれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「児童発達支援センターの機能や役割は何が求められているか」 「強度行動障害者の地域での生活に必要なことについて」 「医療的ケア児支援法の改正に向けて——ライフサイクルで一貫した支援をつくる——」 「障害者施設の高齢化と重度化——どこで最後を迎えるか」 「介護保険と障害者総合支援法」 「生活を考える——放課後の過ごし、土日の過ごし、長期休暇の過ごしと本人の要求」 「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」 「障害児における社会的養護の現状とこれからの方向性」 「地域で暮らすとは……グループホームを考える」 		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 6月23日（日）13:30～16:30 自己紹介と問題関心の交流 ミニ講義(予定)</p> <p>第2回 8月25日（日）13:00～16:00 分担報告 +ミニ講義（児童発達支援）</p> <p>第3回 10月27日（日）13:00～16:00 " (放課後・学童保育)</p> <p>第4回 12月22日（日）13:00～16:00 " (暮らす)</p> <p>第5回 2月16日（日）13:00～16:00 分担報告 +まとめ</p> <p>※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。</p>		